



図 1 幕末から明治の古写真（ひとはく所蔵『VIEWS & COSTUMES OF JAPAN.』）

### 古写真からわかる人と自然の関係

古写真とは、過去に撮影、現像された写真を指します。日本では、江戸時代後期（1843 年）以降、170 年以上にわたり写真を撮影しています。初期の写真は大変高価であったため、写真館で人物のみを被写体とした写真が中心でした。そんな中、来日した外国人が帰国する時のお土産にした写真集（通称：横浜写真）が、幕末から明治の日本中の美しい風景や人々の暮らしを写した大変貴重な資料となっています。白黒写真に日本画の顔料を用いて手作業で彩色された写真が、革装丁や蒔絵、螺鈿細工（貝の装飾）などの豪華な表紙で綴じられており、伝統工芸品としても価値のある資料です。

例として、ひとはくで収蔵している横浜写真『VIEWS & COSTUMES OF JAPAN.』（1888）の一部をご紹介します（図 1）。「HAKONE」では、山に木がほとんどなく、田畑の肥やしや牛馬の飼料、屋根に葺くカヤなど、当時の暮らしに必要な草地在維持されていたことがわかります。また「無題」では、民家と石積が一体化した川辺での暮らし方や、「CHERRY BLOSSOMS」では、街路樹や公園が無かった当時、家々の垣越しに見える庭木がまちを彩っていた様子を鮮明に伝えています。このように古写真は、撮影された時代の人と自然の関係を今に伝えるタイムカプセルなのです。

### 押入れのアルバムがひとはくの資料になる

ひとはくでは、過去の人と自然の関係を探るため、兵庫県古写真を収集しています。個人宅の押入れのありふれたアルバム写真であっても、被写体の人物の背景には、当時の自然環境や街並み、生活文化を確認することができ、学術的な資料となります。多くの古写真が得

られた場合、撮影場所や年代によって整理し、地域の環境の変化を調べる研究に役立てます。また、撮影者や当時を知る住民がご健在である場合、その方々の「記憶」を合わせて記録することで、写真の詳細や当時の生活まで資料として後世へ伝えることができます。

このような個人宅の古写真は、アルバムごとお借りしてデジタルデータ化して返却し、データの使用許諾をいただいた上で、資料として登録しています。皆さんの家の古いアルバムも、ひとはくの資料として永久収蔵してみたいかがでしょうか。



写真 1 空き家を活用した古写真展（養父市明延）



写真 2 住民と大学生による風景の比較調査

### 古写真をまちの未来に活用する

地域で収集した古写真は、地域で展示・活用することでその真価を發揮します。何気ない古写真の中に、地域の方が共感できる懐かしさや、地域の外から来た方の再発見があり、古写真を展示して多くの人と共有することは、地域コミュニティの形成やまちづくりの拠点づくりに有効です（写真 1）。

例として、ひとはくと協働で地域の「古写真展」を開催する佐用町三河地域では、毎回異なる古写真で昔話に花が咲くことから、7 つの集落各所から人が集まって交流が深まるほか、都市部に住むお孫さんが古写真展に合わせて帰ってくるなど、ふるさと意識の継承にもつ

ながっていると聞いています。また、展示を続けていることで、住民の方々とひとはくに実習に来た大学生たちが一緒に、古写真にまつわる記憶を地域の古老から聞き取りしたり、古写真と全く同じアングルから現在の写真を撮影して、風景を比較する調査を行うなど、活動の幅が広がりました（写真 2、図 2）。

このように、ひとはくでは、古写真を未来のまちづくりや風景づくり、環境づくりに活かす活動を各地で取り組んでいます。今回の収蔵資料展では、地域の方々の思いが沢山つまった古写真を一挙公開するとともに、そんな古写真たちが、地域の未来にどう活かされつつあるのかをご紹介します。

大平 和弘（自然・環境マネジメント研究部）

	古写真に写された風景	現在の風景	記憶と現在の比較
田植え・代掻きの風景			<ul style="list-style-type: none"> <li>昔の田植えは集落共同で行い、田んぼに水を入れて土をかきならす代掻きに牛を使っていた</li> <li>現在は、山の木を伐って薪に使うこともないため、山の木々が古写真と比べて茂っている</li> </ul>
茅葺き民家の風景			<ul style="list-style-type: none"> <li>古写真は 50 年ほど前に撮られ、当時 2 階部分ではカイコを飼っていた</li> <li>現在は、茅葺き屋根が瓦葺きに、木製の障子戸がアルミサッシのガラス戸に変わっている</li> </ul>

図 2 古写真と現在の風景の比較調査の結果（例）

### “温古写真大作戦！！”に参加せよ！！

今回の収蔵資料展では、「温故知新」（古きをたずねて新しきを知る）のごとく、古写真を通して人と自然の未来をお伝えする展示に加え、普段ひとはくの研究員たちが行っている、古写真の収集や読み説き、継承（展示）を、「作戦」として来館者が疑似体験できる楽しい企画を行います。期間中、ひょうごの古写真をスマホ等で撮影して、エピソードとともにメール添付で送ると、ひとはく 4 階サロンに随時展示される作戦や、むかしの人になりきって撮影する作戦など、子どもからご年配の方

まで古写真に親しんでいただければと思います。

大平 和弘（自然・環境マネジメント研究部）

